


 いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

新病院の建設に向けて ～節目の年に決意を新たに～

いわき市病院局長 本間 静夫



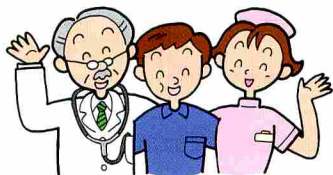
私は、4月1日付けの人事異動で病院局長に就任しました。1955年生まれの54歳です。次長からの持ち上がりで3年目を迎えます。市役所に入所して30年になりますが、これまでの経歴は、福祉部門に12年（ケースワーカー7年）、財政部門の予算査定に9年と使う側と絞り込む側のある意味両極端の部署を経験しました。今の職場はどちらも兼ね備えたバランス感覚（公共性と経済性）が必要であり、正直言って苦悩の連続と言っても過言ではない日々を送っております。

ところで、私が仕事がうまくいかないときや辛いときに、海援隊や古谷一行さんが歌っている「思えば遠くへ来たもんだ」を良く口ずさみます。私にとって「いわき」は、第二の「ふるさと」です。と言うのも、父の仕事の関係、いわゆる転勤族で、鳥取県の境港市に14年間、中学2年生まで過ごしました。ここが、心のふるさとです。その後、奈良、横浜、つくば、と段々と北上し、いわきに至って30年になります。2人の子育ても終わり、妻と2人暮らしになると、医療や福祉に関する夫婦の会話が自然と多くなり、今の仕事の大切さを身をもって感じ、頑張らねばと思いを新たにす今日この頃です。

さて、市立病院事業は、国の社会保障費の抑制が推し進められる中、病院経営の生命線である診療報酬の相次ぐ引き下げが行われ、医師不足とあいまって、全国の自治体立病院の約8割が赤字を計上せざるを得ない厳しい経営環境となっております

我がいわき市も例外ではなく、平成19年度は過去最大の約23億円の赤字を計上するに至り、このままでは、市立病院はもとより、地域医療全体の崩壊を招きかねないとの強い危機感のもと、去る3月27日に、「いわき市市立病院改革プラン」を策定しました。

プランにつきましては、「安全・安心の医療提供」と「安定した経営基盤の確立」を掲げ、経営目標として、短期的には「運転資金の確保」、中期的には「経常黒字の達成」、そして、長期的には「新病院の建設」に取り組むこととしております。



【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

電話 0246(26)2250(直通) FAX 0246(26)2119

 URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>

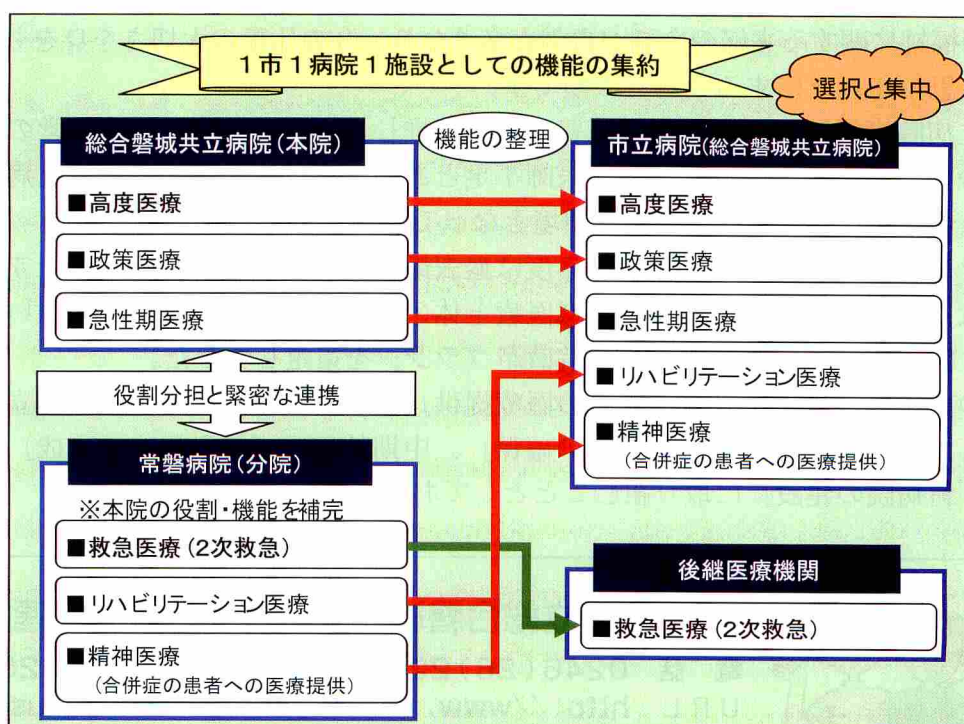
 E-mail kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp

このプランにおいては、本市の病院事業の大きな節目となる2つの案件が盛り込まれています。

1つには、真に持続可能な市立病院事業の経営を確立するため、平成22年4月を目途に、分院である常磐病院の診療機能を本院である総合磐城共立病院に統合し、「1市1病院1施設」とすること。統合後の分院は、救急医療の機能継続を前提に市内の医療法人等に引継ぐという、痛みを伴う苦渋の選択とはなりましたが、一方では、新病院の建設への1里塚ともいえます。常磐病院の後継医療機関につきましては、4月27日に、医師会、病院協議会の代表、大学教授、公認会計士及び市立病院関係者など7名の委員で構成する「いわき市後継医療機関選定委員会」を立ち上げ、公募要領や審査基準を作成し、6月19日から7月2日まで公募を行ったところ、1団体から応募がありました。7月20日に第4回の選定委員会を開催し、応募者による公開プレゼンテーションを実施した上で審査を行うなど、選定作業を進めることとしています。

2つには、新病院の建設です。「市中期財政計画」との整合を図りながら、「新・市総合計画基本計画」（後期計画期間：平成23～32年度）へ位置付けを目指すとともに、本院、分院の統合後、早期建設に向け、速やかに検討に着手することとしておりますが、他市の事例や作業工程を見ますと、検討に着手してから建設完了までに7年位の期間が標準とされております。そこで、決意を新たに歩みを加速させるため、7月14日に準備作業として病院局内に新病院建設調査検討会を立ち上げ、新病院のあり方や方向性など基本的な事項について、検討に着手することとしました。

終わりに、高度医療への対応に必要な医療機器などの整備や療養環境に配慮した病室の整備など、市民の皆様や医療従事者の皆様などから待ち望まれている新病院の建設とともに、地域医療機関との機能分担の上に立って、病病連携、病診連携をより以上に推進して、地域完結型医療体制の確立に一層力を注いで行かなければならないものと考えております。どうか皆様方のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

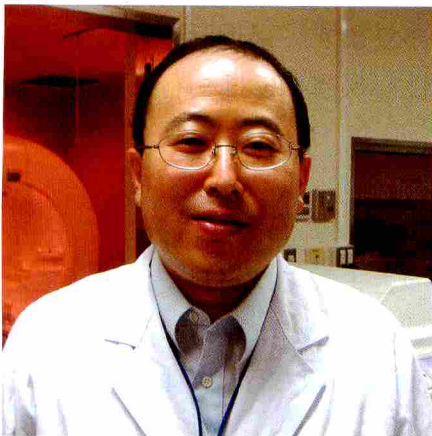


診療科 紹介

放射線画像診療科

放射線画像診療科

清野 修



(放射線画像診療科 清野 修医師)

〈沿革〉

それまで放射線業務の全般を担当していた(旧)放射線科から診断部門が独立して、放射線画像診療科として再スタートを切ったのは平成11年9月のことです。主に東北大学からの協力で運営されていたこの診断部門を引き継ぐ形で福島医大からの初めての常勤医が平成14年4月に着任し、以後大学からの応援を頼みながらほぼ1年交替で運営されてきました。現在は平成19年4月に着任した常勤医1名と市内で開業されている放射線科専門医2名の非常勤体制で運営されています。

〈診療内容〉

当院は診断用として静磁場強度1.5T MRI (磁気共鳴画像診断装置) 2台、ヘリカルCT (X線コンピュータ断層撮影装置) 3台、RI (ラジオアイソトープ) 診断用ガンマカメラ1台を有しており、浜通り地方ではもっとも充実した放射線診断の設備を備える総合病院です。特にCTに関しては、最新鋭の64列MDCT (多列検出器型CT) が本年3月に導入され、CTによる心臓冠動脈撮影とその診断が可能となりました。また、電子カルテの導入に伴い、PACS (画像保存・通信システム) による画像情報の統一的な管理を行えるようになり、当院は逐次フィルムレスへの移行を行うことになっておりますので、今後はご要望があればCD-R等によるDICOM (デジタル医用画像と通信) 画像データの提供も行っていく予定です。

1) MRIによる画像診断

頭部・頸部・胸部・腹部・四肢関節など全身のMRI診断。

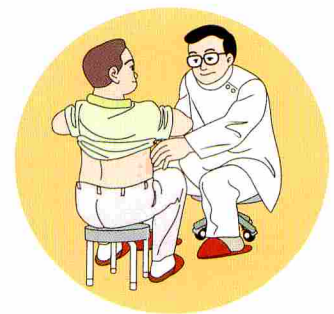
MRIでは造影剤を使わないMRA (MRアンギオグラフィ) による頭部や下肢血管の評価が可能です。また、膵胆道系の評価に対してMRCP (MR胆管膵管造影検査) を多数行っております。

2) CTによる画像診断

同じく全身のCT診断。

頭部に関しては当院脳神経外科の協力により速やかな対応を行うことができますようになりました。

造影剤を使用した多時相での撮影により、肝や腎の多血性・乏血性腫瘍の診断 (ダイナミックCT検査) も行っております。



冠動脈撮影に関しては当院循環器科・心臓血管外科との連携でマルチモダリティな診断対応を可能としております。

(これにつきましては直接診療科の方へお問い合わせください。)

3) RIによる画像診断

さまざまな放射性核種による診断が可能です。検査件数の多いものとしては骨シンチグラフィ、腫瘍シンチグラフィ、腎シンチグラフィなどがあります。最近話題の脳血流診断による認知症の評価や心筋シンチグラフィによる虚血性心疾患の診断も行っておりますのでお問い合わせください。

(PETによる診断は行っておりません。)

4) その他

カテーテルによる血管造影検査、その他透視検査等につきましては当科では行っておりませんので担当科の方へ直接ご紹介ください。

最新のWS（ワークステーション）による様々な3次元画像処理も行っております。

〈診療実績〉

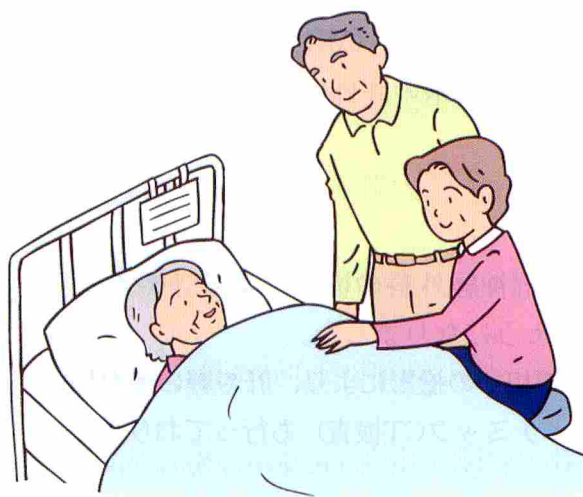
平成20年の読影件数実績は以下の通りです。

MRI：4771件 CT：6306件 RI：962件 合計：12039件

検査総件数の伸びに対するマンパワーの不足で、依頼に対する読影率はおおよそ69%となっており、現状では100%の依頼に応えることが難しい状況です。

〈おわりに〉

ご他聞に漏れず当科も地方の医師不足の影響を強く受けており、絶対的な人手不足から十分な診療体制を維持できないでいるのが現状です。できるだけ迅速な対応を心がけておりますが、ご不満・ご要望などありましたら遠慮なくお申し付けください。



診療科 紹介

血液内科

血液内科

齋 敏 明

当科は福島県浜通り地区における唯一の血液疾患専門診療科であり、いわき市のみならず、北は相双地区、南は北茨城・高萩に至る血液疾患患者の診療に当たっている。造血器腫瘍（白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫など）の治療が主体であるが、貧血や出血・凝固異常、さらにはエイズにいたるまで多くの疾患を対象としている。

当院における血液内科としての本格的な診療は昭和40年代に岡正行先生（故人）による白血病治療として始まった。その後、樋渡克英先生（故人）が血友病などの出血・凝固異常症を担当され、昭和58年から3年間は飛内賢正先生（現、国立がんセンター中央病院）が加わり、悪性リンパ腫に対する治療が体系化された。3氏により当科の診療基盤が築かれ今日に至っている。筆者（昭和58年、東北大卒）は昭和60年より勤務しているが、平成6年より濱崎洋一医師（昭和63年、福島医大卒）が、平成20年より阿久津和子医師（平成12年、福島医大卒）が加わり、現在スタッフ3名で診療に当たっている。

当科の受診者の大半は院外の病院・診療所や院内の他科からの紹介患者であり、近年増加傾向にある。年間の初診患者数はおおよそ、白血病20例、悪性リンパ腫40例、多発性骨髄腫20例、骨髄異形成症候群20例、再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患30例である。造血器腫瘍の多くは早急入院加療としているが、貧血の重症例を除き良性疾患は概ね外来診療としている。

病棟は西6階にあり、常時40名前後の入院患者がいる。造血器腫瘍治療時の感染症対策として無菌環境が重要であるが、完全無菌室1床、準無菌室2床、簡易無菌室3床を有し、ほぼ常時稼働しており、今後増設を予定している。治療は化学療法が主体ではあるが、症例によっては無菌室を利用し移植治療を施行している。平成4年より白血病に対する同種骨髄移植を、平成7年より悪性リンパ腫に対する自家末梢血幹細胞移植を開始したが、いずれも福島県の成人例では初めての移植となった。末梢血幹細胞移植は骨髄移植と同等の治療効果があり手技も簡便なため、平成10年より同種移植も末梢血幹細胞移植に切り替えている。年齢や治療経過により移植の適応が限られるため、これまでの移植症例数は同種移植20例、自家移植30例にとどまってはいるものの、今後必要に応じ移植治療を施行していく所存である。



造血器腫瘍の治療成績は近年の新たな治療法の開発で徐々に向上がみられている。急性骨髄性白血病では、化学療法により60歳以下の症例では寛解率80%、治癒率40%が期待されるようになったが、そのうち急性前骨髄球性白血病に対してはビタミンA誘導体であるトレチノインが分子標的治療薬として極めて有効であり、治癒率は80%に達している。また、かつて骨髄移植以外では治癒を望めず、多くが数年で不幸な転帰をとっていた慢性骨髄性白血

病では、分子標的治療薬であるイマチニブが長期に病状の安定をもたらすようになった。

悪性リンパ腫では従来の化学療法（CHOP療法など）での治癒率は75歳以下の症例で40%であったが、Bリンパ球に対するモノクローナル抗体（リツキシマブ）と化学療法との併用で治癒率は60%まで向上している。さらに、多発性骨髄腫に対しては睡眠導入剤であるサリドマイドの有効性が明らかとなり、また分子標的治療薬としてボルテゾミブが開発され、完治までは得られないものの病状の安定が長期に保たれるようになった。

新たな治療法の開発や補助療法の進歩により治療成績の向上が期待される反面、高齢者の血液疾患患者には予後を改善する治療法は確立されていない。白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫など高齢での発症は確実に増加しているが、化学療法により全身状態が悪化する症例が多く、輸血などの補助療法のみが有効な手段であることが少なくない。特に、骨髄異形成症候群は造血の老化が背景にあり、多くは急性白血病に進展するが治療抵抗性であり、残念ながら予後は極めて不良である。

今後も血液疾患の患者は一定の推移で増加していくものと思われるが、個々の症例に応じた治療を選択しつつ、より良い医療を提供していきたいと考えている。

（稿を終えるにあたり、治療に直接携わっていただいている看護師の皆様、検査部・薬局・栄養給食室など関係部署の皆様に深謝申し上げます。）



（前列中央より右に 齋 敏明医師、濱崎洋一医師、阿久津和子医師）

診療科 紹介

病 理 科

病 理 科

浅 野 重 之

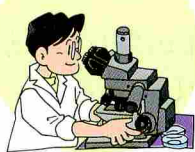
1. 沿革

1956年末頃に東北大学病理に標本を送って診断をしていた記述が残っており、この頃が当院病理科の始まりと推測される。その後、1968年頃から若狭治毅先生が東北大学より出張されて診断し、1981年からは労災病院の箱崎半道先生の応援も頂いていた。1981年10月に若狭先生が福島医大第一病理に移ってからは、若狭、箱崎両先生にご指導を頂きながら若手教室員が交替で診断業務に当たっていた。その後、1993年4月に私が赴任し、福島医大第一病理から応援を頂きながら病理、細胞診の業務を続け、現在までに病理学会および細胞学会より施設認定を取得している。病理科の部屋も現在までに4回ほど移動し、その間古い病院ながら病理としての設備も凡そ整ってきたので、今後はホルマリンを初めとする作業環境整備を整備し、地域医療に貢献できるように考えている。

2. スタッフ (写真参照)

浅野重之(病理専門医、細胞専門医)、蛭田道子(専門臨床検査技師、CT)、江尻晴博(専門臨床検査技師、CT)、森 菊男(専門臨床検査技師、CT)、山崎一樹(主任臨床検査技師、CT)、小野早苗(主任臨床検査技師、CT)、池田 藍(臨床検査技師、CT)。吉田京子(臨床検査副技師長、CT)。当院にはCT(細胞検査士)が7人おり、病院としては県内でも一番多くのCTを抱えていることになる。但し、常勤病理医は赴任以来一人であり、マンパワーには欠けるところが最大の悩みである。

〈病理科医局員〉



(後列左1番目 浅野重之医師)

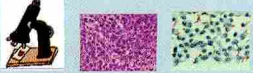
3. 業務内容 (図参照)

当院職員およびいわき市民に病理科の業務内容を啓蒙するために病理科の廊下にパネルで掲示した。平成19年12月4日より掲示をはじめたが、眺めている市民の方からときに質問されることがある。今後も少しずつ広報活動を行い、より良い医療提供の一端を担っていきたいと思っている。

『**病理診断**(びょうりしんだん)』ってなあに？

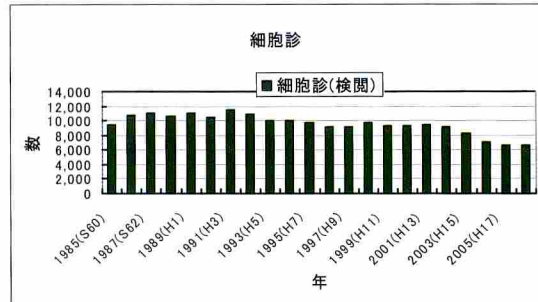
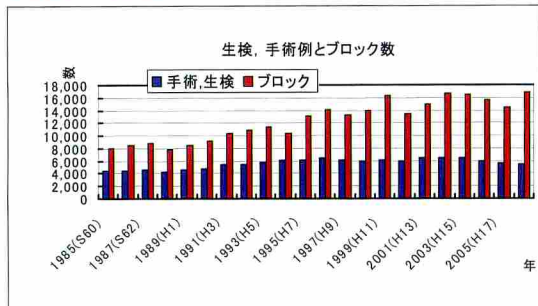
患者さんから採取した**病理検体***(細胞、組織、臓器)を顕微鏡で詳しく診て、癌かそうでないかの診断をします。また、病気の広がり、治療方針や治療効果の判定もします。さらに、病気の予防、早期発見にも貢献しています。「**病理科**」のある病院では特に**質の高い医療を提供している**といえます。
*検体とは、病家の一部をつまみ取った組織の一部をいいます

[病理のお仕事]



1. 生検、手術例の病理診断
2. 手術中の迅速診断
3. 細胞診断
4. 病理解剖
5. 臨床-病理症例検討会(CPC)

4. 実績の推移 (図参照)



全体的に生検、手術、細胞診および剖検数が減少しているが、詳細な検索のために組織の切り出し数が多いので、ブロック数は依然として多い傾向にある。

5. 病診連携、教育、研修など

1. 病理標本の連携；患者が他院から紹介あるいは転院する場合は、病理標本の貸し借りが多い昨今であるが、当院作成の標本が信頼のおける情報源として院外に移動している。
2. 院外技師研修；当院では細胞診、組織診の症例数が多いので、いわき市内の他施設からの技師の研修には充分応じられる体制が整っている(技師研修)。
3. いわき病理と臨床検討会(IPCC)；平成6年7月より22回を数え、年2回行っており、いわき市内の各施設より症例報告とCPCを行っている研究会である。
4. 教育型CPC(臨床-病理検討会)；1995年～2003年には従来型のCPCを行っていたが、2004年～2009年現在では、臨床研修医に対する教育の意味もあって研修医が主体となって行う教育型CPCを定期的で開催しており、院外のOBも参加している。
5. 医学生BSL(bed side learning)；福島医大6年生が2週間病理科に滞在して研修するが、一般業務とテーマ研究を行い最終日に発表できるように計画されている。
6. 臨床研修医の病理科選択；研修医制度が発足してから既に6人が病理科を選択し、成果を学会などに発表している。
7. 病理科内マクロスライド検討会；毎月1回、手術例の肉眼、組織所見を病理科スタッフ全員で検討している。

ようこそ!!

新任医師紹介



小児科
星 吾朗 医師

5月から小児科でお世話になっている星吾朗です。福島県立医大地域家庭医療部というところの後期研修医です。将来は家庭医を目指しています。よろしくお願いいたします。



小児科
上村 美季 医師

卒後5年目になりますが、昨年は出産・育児のため休職していました。新たな気持ちで頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



心臓血管外科
坪井 栄俊 医師

心臓血管外科の坪井栄俊(つばいえいとし)です。出身は郡山市で平成15年に福島医大を卒業しました。今後、当院での心臓大血管手術症例は飛躍的に増加していくと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



麻酔科
山田 均 医師

4月から赴任して参りました。麻酔科3年目の山田です。まだまだ未熟なので、ご迷惑をおかけすることと思いますが、一生懸命がんばりますので、よろしくお願いいたします。



脳神経外科
金子 純也 医師

4月から脳神経外科に着任しました6年目の金子です。初期研修終了後、日本医大救命センターへ入り、4年目から脳外科研修をしています。どうぞよろしくお願いいたします。



リハビリテーション科
皆川 夏樹 医師

常磐病院に6年(リハビリ・療養棟/内科/訪問診療)、平の山内クリニックに3年(訪問診療)、と、いつの間にか10年近くいわきにのたかった揚げ句、共立病院にきました。いわき、終の棲家か!? いやいや・・・



小児外科
神山 隆道 医師

この度、東北大学から小児外科に赴任しました。4年前まで当院に勤務しておりましたので、出戻りになります。卒後25年、未だに医局人事で働いていましたが、さすがに今回は骨を埋める覚悟でいわきに参りました。



外科
苛原 隆之 医師

「いらはら」と読みます。日本医科大学救急医学教室から外科後期修練で参りました。外科手術を数多く経験する一方、救命センターでも当直のお手伝いをさせていただいております。よろしくお願いいたします。



整形外科
早川 敬 医師

4月1日付で、整形外科に赴任しました早川 敬です。約2年半ぶり、2度目のいわきです。肩関節、股関節疾患を中心に診療にあたらせて頂いております。いわきの医療に貢献できるよう頑張りますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。



整形外科
坂本 哲哉 医師

平成21年4月より、整形外科でお世話になっております。諸先生方には何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

ようこそ!!

新任医師紹介



**整形外科
渡邊 和之 医師**

平成21年4月より、当院にてお世話になっております。医師としては9年目となります。脊椎外科を中心に、福島医大のサポートをいただきながら診療しております。よろしくお願ひいたします。



**外科
永井 有 医師**

4月からお世話になっております。平成11年、東京医科歯科大学を卒業しております。みなさんと力を合わせて頑張りたいと思います。よろしくお願ひいたします。



**形成外科
佐々木正浩 医師**

今年4月より、茨城県立中央病院から赴任いたしました。症例の豊富な共立病院にて精進します。よろしくお願ひいたします。



**小児科
角田 文彦 医師**

今年4月より、小児科に配属となりました。角田文彦と申します。医師6年目です。少しでもいわき地域の小児医療を担えればとがんばりたいと思います。



**未熟児新生児科
金井 祐二 医師**

今年の4月から未熟児新生児科に赴任いたしました金井祐二と申します。いわき市で産まれる全ての赤ちゃんが元気に健康に育ってくれることを願ひ、新生児医療に努力いたしますので、皆様よろしくお願ひいたします。



**消化器科
土佐 正規 医師**

4月から消化器科に着任いたしました。どうぞよろしくお願ひいたします。



**脳神経外科
赤松 洋祐 医師**

4月から脳神経外科に赴任しました。他科の先生方には、いろいろとお世話になるかと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。



**形成外科
赤澤 俊文 医師**

4月より赴任いたしました形成外科の赤澤です。以前は静岡県浜松市で研修医生活を送り、いわきにて形成外科医としての1年目を学ばせて頂く所存です。今後のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



**麻酔科
西本 れい 医師**

4月より異動しました。麻酔科医として、手術室の安全な運用を目指して働いていきます。よろしくお願ひします。



**麻酔科
大見 究磨 医師**

4月より赴任しました麻酔科の大見です。よろしくお願ひします。

新体制でスタート!!

～よろしくお願いたします～

平成21年4月より、新谷 史明副院長、坂元 和子副院長兼看護部長、中山 晴夫診療局長、本間 静夫病院局長、氏家 廣仲次長兼経営管理部長が新たに就任し、新体制でのスタートをきりました。

これからも、皆様に親しまれ、信頼される病院として貢献できるよう頑張っております。



前列左より 坂元和子副院長兼看護部長 市原利勝副院長 樋渡信夫院長 鈴木孝雄病院事業管理者
本間静夫病院局長 須貝吉樹副院長 新谷史明副院長

後列左より 氏家廣仲次長兼経営管理部長 渡辺信雄磐城共立高等看護学院長 小山敦救命救急センター長
相澤利武副診療局長 中山晴夫診療局長 増山祥二副診療局長

平成21年度 初期研修医

| | | |
|------|----|--------------|
| 石井真樹 | 医師 | (福島医科大学) |
| 葛原信三 | 医師 | (聖マリアンナ医科大学) |
| 駒沢大輔 | 医師 | (昭和大学) |
| 崔元吉 | 医師 | (弘前大学) |
| 盛彬子 | 医師 | (福島医科大学) |

平成21年度 歯科研修医

横山絵里 医師
(奥羽大学歯学部)



地域医療連携実績報告

平成20年度の紹介患者数・逆紹介患者数が特に多かった地域医療連携登録医療機関をまとめました。

<平成20年度 地域医療連携登録機関別紹介患者数>

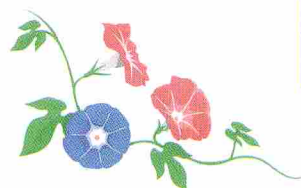
| I 病院編 | | | II 医院・クリニック編 | | |
|-------|-------------|-----|--------------|---------------|-----|
| 1 | 呉羽総合病院 | 219 | 1 | 山口医院 | 271 |
| 2 | いわき泌尿器科病院 | 208 | 2 | せき整形外科クリニック | 241 |
| 3 | かしま病院 | 102 | 3 | いわき草木台総合クリニック | 179 |
| 4 | 櫛田病院 | 76 | 4 | 長瀬内科胃腸科 | 175 |
| 5 | いわき湯本病院 | 75 | 5 | かもめクリニック | 173 |
| 6 | 小名浜生協病院 | 48 | 6 | 山内クリニック | 164 |
| 7 | 竹林病院 | 47 | 7 | 月川レディースクリニック | 162 |
| 8 | 大河内記念病院 | 40 | 7 | ながい小児科 | 162 |
| 9 | 国立病院機構いわき病院 | 39 | 9 | むらまつ小児科 | 149 |
| 10 | 石井脳神経外科眼科病院 | 38 | 10 | ひるた内科医院 | 140 |

<平成20年度 地域医療連携登録機関別逆紹介患者数>

| I 病院編 | | | II 医院・クリニック編 | | |
|-------|-----------|-----|--------------|-------------|-----|
| 1 | かしま病院 | 348 | 1 | 山内クリニック | 212 |
| 2 | 呉羽総合病院 | 196 | 2 | ひるた内科医院 | 150 |
| 3 | いわき泌尿器科病院 | 183 | 3 | 山口医院 | 136 |
| 4 | いわき湯本病院 | 105 | 4 | せき整形外科クリニック | 119 |
| 5 | 大河内記念病院 | 90 | 5 | 長瀬内科胃腸科 | 106 |
| 6 | 櫛田病院 | 81 | 6 | 弘仁歯科医院 | 80 |
| 7 | 磐城中央病院 | 66 | 7 | たねだ内科クリニック | 79 |
| 8 | 小名浜生協病院 | 61 | 8 | 須田医院 | 71 |
| 9 | 竹林病院 | 47 | 9 | ちょう整形外科 | 64 |
| 9 | 中村病院 | 47 | 10 | みちや内科・胃腸科 | 61 |

患者様をご紹介いただく際は、予め予約をお取りしますので、当院地域医療連携室をご利用ください。

今後も当院の地域医療連携事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



地域医療連携室業務時間
月～金 8:30～17:15

